

令和 6 年度
宮古島市地産地消ブランド化推進業務
報告書

2025 年 2 月

< 目次 >

1. 業務概要.....	1
1.1 目的	1
1.2 業務期間.....	1
1.3 業務内容.....	1
1.4 スケジュール.....	3
2. 実施体制.....	3
3. 実施内容.....	4
3.1 コア・コミュニティの運営.....	4
3.2 地域コミュニティの形成.....	13
3.3 イベントの開催	21
3.4 新たな仕掛けの検討・実施.....	32
4. 今後の課題整理と展開について	37

1. 業務概要

1.1 目的

宮古島市においては、多くの食材を生産しているものの、市民や観光客等が消費する食材の多くは域外から調達されており、地域経済の流出につながっている現状がある。食料の地産地消を推進することによって、地域内経済の循環による所得向上のほか、食料安全保障の確保による市民生活の安全・安心の向上、生産者を支えることによる地場産業の継承など、地域社会の持続可能性を高めていくことが重要である。

地産地消を地域全体として推進していくためには、市民や観光客の多くが広く地産地消の意義を共有し、楽しみながら地産食材や地産食材を活用した飲食店、商品等を選択するなど、地産地消のムーブメントを起こしていくことが重要である。

令和5年度の事業では、地産地消を市民の立場から広めていくための仕組みや仕掛けを検討するメンバーをコア・コミュニティ（しまさんフレンズ）として組織し、地産地消を地域ブランドとして確立していくためのブランドコンセプトの検討、ブランドマニュアルづくり、コンセプトを伝えるブランドブックの制作、イベント「しまさんマルシェ」の実施などの取り組みを進めた。

令和6年度においては、令和5年度に実施した事業の成果をもとに、さらに市民運動として地産地消（しまさんにしましよう）の取り組みを広めていくための活動や仕組みづくりを行うことを本業務の目的とする。

1.2 業務期間

令和6年6月3日～令和7年2月28日

1.3 業務内容

(1) コア・コミュニティの運営

地産地消を地域ブランドとして確立するため、その活動や仕組み、仕掛けについて、中心になって検討するコア・コミュニティを運営するため、事務局業務を実施する。月に2回程度のコア・コミュニティ会議のほか、週に1回程度の事務局会議を行うことを想定する。

なお、コア・コミュニティのメンバーについては、令和5年度のメンバーを基本としつつ、メンバーの意向を確認し、必要に応じて追加メンバーの検討・参加打診等を行う。

(2) 地域コミュニティの形成

コア・コミュニティを核として展開される活動に積極的に参加する層に対して、地域コミュニティとしての位置づけを検討し、市民運動を広げていく仕組みづくりを行う。例えば、コア・コミュニティには参加できないが、イベント等の運営をサポートする「しまさんサポーター」や地産地消の活動に積極的に関わる子どもたちを「しまさんキッズ」などとする位置づけと、そうしたメンバーの関わり方等を検討し、令和6年度に行う活動で展開を図る。

また、活動に関わる層を広げるための取り組みとして、ターゲットとなる層の関係者に対して、令和5年度に制作したブランドブックやロゴの活用を行う。活用方法については、コア・コミュニティ会議の中で検討することとするが、ブランドブックについては、単に配布するのではなく、配布先に趣旨やコンセプトが伝わり、地産地消が市民に浸透していく方策を検討する。

(3) イベントの開催

令和5年度に実施した「しまさんマルシェ」と同様のイベントを開催する。具体的な内容については、コア・コミュニティ会議の中で検討・企画し、周知活動及び運営を行う。

(4) 新たな仕掛けの検討・実施

地産地消を市民運動として広げていくための新たな仕掛け、活動を展開する。令和5年度に出されたアイデアとしては、①市民の日常生活の中で、地産地消との接点をより多く設ける取り組み、②市民が生産者や地産食材と深く関わり、学ぶ機会の提供、③新たな普及啓発媒体による情報発信（ウェブ、冊子、テレビ・ラジオ等）などが挙げられている。

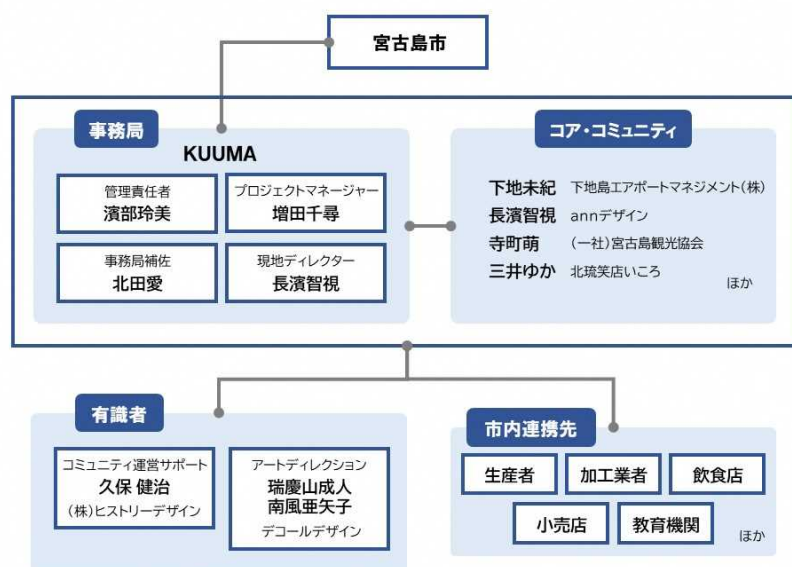
具体的な内容については、コア・コミュニティ会議の中で検討されていくものであることから、計画時点における想定により企画提案を行い、事業を進める中で、必要に応じて事業計画を変更して実施するものとする。

(5) 今後の課題整理と報告書の作成

1.4 スケジュール

業務内容	R6							R7	
	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
(1) コア・コミュニティの運営									
(2) 地域コミュニティの形成									
(3) イベントの開催									
(4) 新たな仕掛けの検討・実施									
(5) 今後の課題整理と報告書の作成									

2. 実施体制



3. 実施内容

3.1 コア・コミュニティの運営

(1) 実施概要

実施目的	ブランディング活動を推進するための中心的な動きを担う組織として、コア・コミュニティの運営を行う。
実施期間	令和5年6月～令和6年2月
実施方法	市と事務局にて候補者を選定し個別案内を実施。
候補者象	日々の暮らしの中で消費者目線を持ち、且つ地産地消に興味関心の強い女性を中心に、民間・行政問わず候補者として選定。

(2) コア・コミュニティメンバー

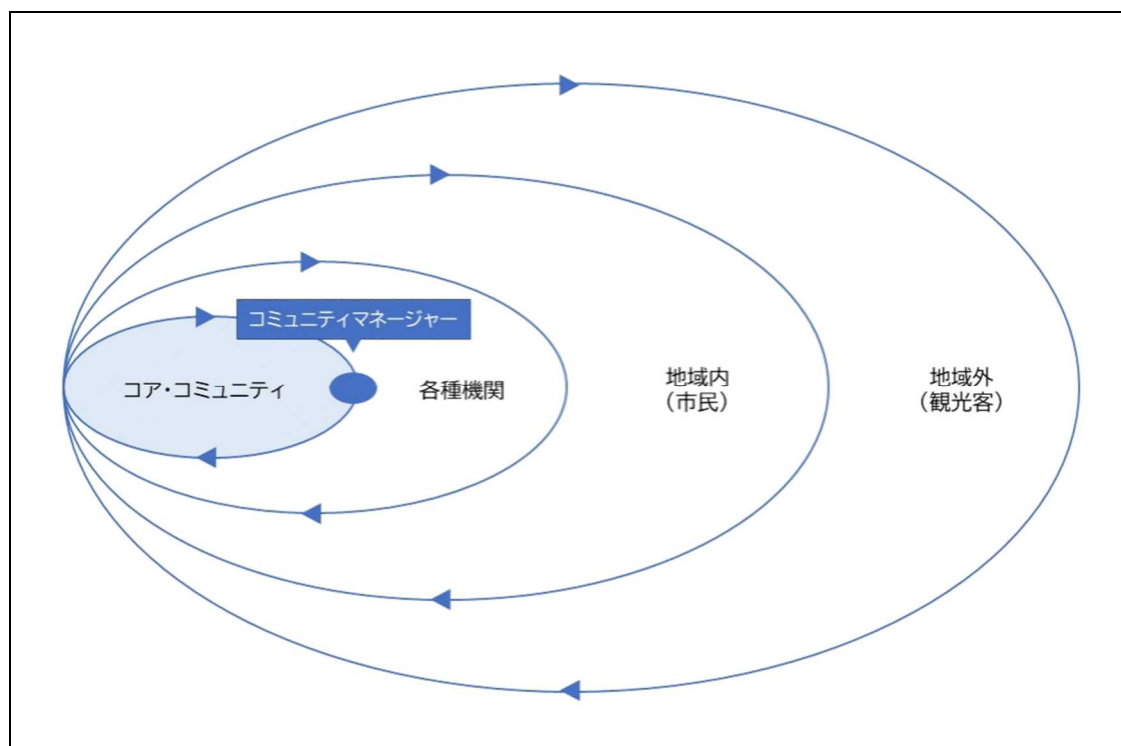
島内で地産地消に取り組むまたは関心のある事業者を中心に、宮古島市と事務局で各々声をかけて、事業趣旨とコア・コミュニティの役割等を説明しコア・コミュニティメンバーを募った。

(3) 外部有識者

コア・コミュニティの運営や会議等において、異なる分野、異なる視点からの助言やアイデア等を提供するサポート役として招聘。

	氏名	所属
1	ずけやま なると	デコールデザイン
2	南風 亜矢子	デコールデザイン
3	久保 健治	株式会社ヒストリーデザイン

(4) コア・コミュニティから広がる波及イメージ



コア・コミュニティメンバーを核とし、各種関係機関や地域住民との関係性を構築しながら地産地消のブランド化を推進する。地域を巻き込みながらブランド化に繋がる運動等を起こし、地域内におけるブランド認知を高めることで、将来的に広く地域外（観光客）へのブランド訴求と認知拡大を目指す。

(5) コア・コミュニティ会議の実施

2週間に1回の開催で日時を固定し定例化。会場でのリアル参加とオンライン参加によるハイブリット形式で、令和6年6月から令和7年2月までの9か月間で全18回開催。

第1回		
日程	時間	場所
令和6年6月28日（金）	9:30～11:30	宮古島市役所
テーマ	①昨年度事業の振り返り ②今年度のコア・コミュニティ活動の方向性確認 ③スケジュール共有	
内容	昨年度の取り組みを振り返ると共に、今年度の事業概要と方向性について事務局から説明。参加メンバーによる事業に対する意見交換を実施。	

第2回

日程	時間	場所
令和6年7月12日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①仕組みづくりについて（しまさんフレンズの定義） ②場づくりに対するアイデア出し ③情報発信に関する進捗共有	
内 容	市が進める地産地消事業の中での本事業の立ち位置の確認、しまさんフレンズの定義について協議。場づくりに関してアイデア出しを実施。	

第3回		
日程	時間	場所
令和6年7月26日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①しまさんフレンズの定義について ②情報発信の進捗共有 ③場づくり、仕組みづくりの考え方について ④場づくりに関するアイデア出し	
内 容	しまさんフレンズの定義が「島ならではのものを大切にして暮らしたい人たち」に決定。場づくりのアイデアで「公設市場の活用」を検討。掲示板やブランドブック（以下、「しまさんブック」という。）の配布について協議。その他情報発信としてステッカー配布案や島の高等学院との連携案も検討。	

第4回		
日程	時間	場所
令和6年8月9日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①公設市場における場づくりについて ②しまさんにしましろうロゴのガイドラインについて	
内 容	公設市場内での掲示やブースづくり、夏祭りへの参加などを検討。地産地消の日として「しまさんにしましろうの日」制定についても協議。ロゴ活用におけるスキームについても検討。	

第5回		
日程	時間	場所
令和6年8月23日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①公設市場での場づくりについて ②今後の進め方の確認	
内 容	公設市場での可能性のある場づくりアイデア（市場祭りへの参加など）をもとに、今後の進め方を協議。その他、仕組みづくりとしてロゴの活用、しまさんにしましろうの日の制定に向けた流れを確認。	

第6回		
日程	時間	場所
令和6年9月6日	9:30～12:00	Cafe373（公設市場内）
テーマ	①今後の流れとスケジュールの確認 ②しまさんミニ商店について ③市長へのあいさつに向けた調整 ④市場祭りへ参加日程等の検討 ⑤島の高等学院との連携 ⑥ロゴ・について	
内 容	主に場づくりの実現に向けた流れ、スケジュールを確認。個々の実施項目について内容と具体的なアクションについて協議。 しまさんミニ商店については「P21. ①段ボールアートワークの開催」を参照。	

第7回		
日程	時間	場所
令和6年9月20日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①公設市場定例会の内容共有 ②夏祭り参加について ③しまさんにしましろうの日制定に向けて	
内 容	公設市場定例会に参加した長濱氏より協議内容の共有。今後の市場との関わり方、夏祭り参加に向けた進め方について協議。9月21日実施予定のしまさんミニ商店のワークショップの段取りについても確認。	

第8回		
日程	時間	場所
令和6年10月4日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①しまさんフレンズ、しまさんにしましろうの定義 ②10月5日、11月2日市場祭りへ参加について ③さんさーらでのコア・コミュニティ会議の開催	
内 容	しまさんフレンズ＝島ならではの大切に暮らしたい人たち、しまさんにしましろう＝市民活動を応援するプロジェクトとして一旦整理。10月5日での出し物を報告（野菜釣り、ミニしまさん商店のPR）。12月13日にさんさーらでコア・コミュニティ会議とごはんアカデミー＋しまさんぽの開催を決定。	

第9回		
日程	時間	場所

令和 6 年 10 月 18 日（金）		10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①10 月 5 日の市場祭り振り返り ②11 月 2 日の市場祭りについて ③12 月 13 日のさんさーらでのごはんアカデミー・しまさんぽについて		
内 容	10 月 5 日の市場祭りでの反響を共有した上で、11 月 2 日に向けて実施内容を協議し、BOX に入った島食材を当てるゲーム「うりゃーのーりゃー」も追加決定。12 月 13 日のさんさーらでのタイムスケジュールと事前調整事項を確認、しまごはん部、しまさんぽ部に名称も決定。		

第 10 回			
日程		時間	場所
令和 6 年 11 月 1 日（金）		10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①しまさんフレンズの輪を広げていくためには ②市場祭りに向けて ③さんさーらでのしまごはん部、しまさんぽ部について		
内 容	PR 活動として地元メディアへの露出、オープンチャットの活性化、しまさんブックの活用などを協議。翌日に控えた市場祭りに向けての準備、当日の役割について再確認。さんさーらでのイベント告知に向けて詳細の調整と確認。		

第 11 回			
日程		時間	場所
令和 6 年 11 月 15 日（金）		10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①市場祭りの振り返り ②広報メディア活動の進捗共有 ③しまさんマルシェ開催に向けて		
内 容	市場祭りで提供した各コンテンツの結果と参加メンバーの所感を共有。広報について宮古テレビ、FM みやこ、エコアイランド公式サイト（WEBメディア）の進捗を共有。昨年度のしまさんマルシェを振り返り、今年度開催に向けた内容について協議。anna フェスとのコラボを想定。日程案：1 月 26 日（日）、場所：JTA ドーム宮古島。		

第 12 回			
日程		時間	場所
令和 6 年 11 月 29 日（金）		10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①広報メディア活動の進捗共有 ②島の高等学院訪問について ③12 月 28 日の市場祭りへの参加検討 ④しまさんマルシェ開催に向けて		
内 容	島の高等学院へは 12 月 4 日に訪問予定。ホームルームの時間で学生た		

	ちにプロジェクトの概要を伝え、しまさん活動に対する意見交換も実施する予定。市場祭りについては参加できるメンバーがいれば参加で調整。しまさんマルシェについては候補日を2月24日（月・祝）へ変更。当日のタイムスケジュールと実施コンテンツを確認。
--	--

第13回		
日程	時間	場所
令和6年12月13日（金）	10:00～11:30	さんさーら
テーマ	①広報メディア活動の進捗共有 ②しまごはん部、しまさんぽ部の集客状況の確認 ③島の高等学院訪問の報告 ④今後の活動について（POPづくり、なんじょう市民大学の視察） ⑤しまさんマルシェのコンテンツについて	
内 容	しまごはん部21名、しまさんぽ部16名の集客状況を報告。 島の高等学院で学生から出たしまさん活動のアイデアを共有。 市民と島の食材の接点となる場所（小売店）に「しまさんにしましょ」を広げるためPOPづくりについて、島の子供たちと農家や市場のお店を取材しPOPをつくる案などを協議（交流＋ものづくり体験）。 今後の市民活動を応援する仕組みづくりの検討に向けて、なんじょう市民大学の秋本氏を招いた勉強会を事務局より提案。1月12日開催予定のなんじょう市民活動フェスタへの視察も併せて提案。 しまさんマルシェでのコンテンツ内容、出店事業者の募集方法、運営方法について協議。	

第14回		
日程	時間	場所
令和6年12月27日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①しまさん部（しまごはん部、しまさんぽ部）の振り返り ②しまさん子ども新聞記者部について（POPづくりから新聞へ） ③今後の活動／制作物の報告 ④しまさんマルシェについて	
内 容	今後の市民活動の中で「しまさん部」が自然と立ち上がる仕掛けとして、マニュアル作成について協議。 POPづくりのアイデアからしまさん新聞へ。島の子供たちに記者として農家取材し、可愛い新聞にまとめる取り組みを進める。1月10日取材日として調整。 しまさんにしましょを広げるために新たに「紙芝居・アニメーション・ショートムービー」の製作について共有。 しまさんマルシェについてはイベント開催までのスケジュール、出店者	

	募集、開催告知に向けた準備物等を確認。
--	---------------------

第 15 回		
日程	時間	場所
令和 7 年 1 月 10 日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①しまさん子ども新聞記者部について ②しまさんマルシェについて	
内 容	同日実施予定のしまさん子ども新聞記者部の取材段取りを確認。 しまさんマルシェの開催概要、出店者募集要項の内容調整、イベント名について協議。イベント名は「anna フェス～しまさんにしましよう ♪」で決定。当日のスケジュールとコンテンツの詳細について協議。	

第 16 回		
日程	時間	場所
令和 7 年 1 月 24 日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①しまさん子ども新聞記者部の振り返り ②なんじょう市民活動フェスタ視察報告 ③しまさんマルシェについて	
内 容	しまさん子ども新聞記者部について、参加者の声、実施しての感想、今後の進め方について共有。 1 月 12 日に開催されたなんじょう市民活動フェスタの視察内容について、仕組みづくりに至った背景や実際の市民大学運営について報告（2 月 4 日勉強会を予定）。 しまさんマルシェについては、出店者への声掛け状況の共有と、制作物の確認、会場レイアウトや当日スケジュールについて協議。	

第 17 回		
日程	時間	場所
令和 7 年 2 月 7 日（金）	10:00～12:00	宮古島市役所
テーマ	①しまさん子ども新聞記者部の進捗共有 ②各種制作物について ③なんじょう市民大学勉強会の振り返り ④しまさんマルシェについて	
内 容	しまさん子ども新聞記者部については、子供たちから上がってきた取材記事（イラスト等）の共有。 制作物の進捗として紙芝居とアニメーションのサムネイルの共有。 秋本氏による勉強会の振り返りとして参加メンバーでの気づきや意見交換を実施。 しまさんマルシェについては出店者の募集状況の最終確認。出店者マニュアルの内容と会場レイアウトの調整、メンバー各々の役割や当日の動	

	き、必要な準備物等を確認。
--	---------------

第 18 回		
日程	時間	場所
令和 7 年 2 月 25 日 (火)	9:30~11:30	宮古島市役所
テーマ	①anna フェス～しまさんにしましょう ♪の振り返り ②次年度に向けて	
内 容	①イベント開催を経て良かった点、課題（改善ポイント）などを共有。 <良かった点> ・来場者、出店者みんなが楽しんでいる様子だった ・昨年度のしまさんマルシェに来た人が声をかけてくれた ・出店者も満足している様子だった（売上もよかった） ・設営、撤収が想定よりスムーズに出来た ・チームとして動けたから開催できた（自然と役割が決まっていた） ・来場者数が 1,367 名（以前の anna フェスの 3 倍以上の集客） ・会場全体が良い雰囲気、空気感だった。家族で楽しめる場所になっていた（商業目的でないから、手作りのイベントだから） ・anna フェスとしまさんマルシェの双方の層が来ていた、相性が良いと思った ・生産者さんと子供たちの距離が近づく場面があった（しまさん商店で田村ポテトファームのじゃがいもを販売していた時） ・ボランティアスタッフの高校生たちが良かった <課題（改善ポイント）> ・全員がプレイヤーになっていた。現場全体を把握するマネージャーがいなかった ・役割を明確にするための体制図が必要 ・結果的に事故や怪我は無かったが来場者が増えたとリスクが高まるのでパトロールやケアが必要 ・イベント直前のミーティングが無かった（2 週間前が最後） ・早い時間に売切れる生産者さんがいた（補充の検討） ・しまさん受付のレイアウト（正面である必要はないのでは） ・しまさんのコンセプトはしっかり来場者に伝わったのか（微妙） ・しまさん商店への動線ができたなかった。生産者さん側で流れがとまっていた ・生産者さんが少ない。もっと出店していると良い ・しまさんブースを設置してコミュニケーションできるようにした方がよい ・ボランティアスタッフの高校生たちには明確な指示を出した方がよい ・来場者からのフィードバックが欲しかった（しまさんにしましょうの	

	取り組みに対する市民の意見) ・しまさん商店の仕組みの検討（生産者さんのブースで子供たちが一緒に販売する形も検討） ・出店者さん同士が交流する（お互いに見て回る）時間が無かった。仲間づくりが何より大事なので、イベント開始前にそのような時間を設けてはどうか ・今後も活用できるようにイベント開催用マニュアルの整備 ・シニア世代が少ない、もっと来てほしい ②次年度の事業に向けて ・コア・コミュニティメンバーの役割の明確化 事務局、コア・コミュニティメンバー、市民それぞれに期待する役割を整理したい。例えば、オープンな場でしまさん活動のアイデアを持ち寄り生み出すのが市民、その場を運営するのがコア・コミュニティメンバー、アイデアに対して支援方法や体制を検討するのが事務局など。 ・地産地消活動支援制度（以下、通称「しまさんフレンズ支援制度」という。）の説明会&相談会 説明会を開催し興味がある市民が集まる場を設計してもよい。活動に対する相談を受けることで支援制度につなげることもできる。 ・オープンな場づくりの検討（たまり場） コア・コミュニティメンバーだけじゃない、市民にとっても敷居が低く参加しやすい場づくりを検討したい。しまさんお茶部や anna ママ会など。毎回テーマがあると良い。昔の島について詳しい語り部を呼んで話しを聞く会など。行政の取り組みということを全面に出し過ぎると距離を取る市民もいるのでバランスが必要。
--	--

(6) 事務局定例会議

週1回水曜日を固定としながら、参加者の出席状況に合わせ各週調整を行い開催。各取り組みの進捗共有、コア・コミュニティ会議の開催に向けた準備と開催後の振り返り、事業計画に沿った仕組み作り・場づくりに関する検討を実施。

3.2 地域コミュニティの形成

(1) “しまさんにしましょう”と“しまさんフレンズ”の再定義

昨年度作成したしまさんブックを基に、地産地消に資する市民活動を応援するプロジェクトとして“しまさんにしましょう”、身近なところから地産地消の推進を実践・参加する市民（担い手）を“しまさんフレンズ”として再定義した。

【しまさんにしましょう】

宮古島市の地産地消を推進していくため
島ならではのものを大切に暮らす市民の活動のこと

【しまさんフレンズ】

島ならではのものを大切に暮らしたい人たち



(2) 市民活動の輪を広げるための仕組みづくり

市民全体に活動の輪を広げ認知拡大される仕組みとして、しまさんブックを基に情報発信やコミュニケーションツール、支援制度等をコア・コミュニティ会議にて検討を重ね、以下の12種の取り組みについて実践及び実現した。

①しまさんブックの配布

コア・コミュニティメンバーを中心に身近な友人・知人向けにしまさんブックを配布。プロジェクトの目的やしまさんブックに記載のある8つの合言葉を説明しながら、日常の中またはイベント等を通して配布。



②Instagram の開設

情報発信ツールとして、コア・コミュニティ会議内でのアイデアや意見、実際の活動等を配信または投稿。

アカウント URL

https://www.instagram.com/shimasanfriends_385/



③WEB サイトの開設

本プロジェクトの窓口として開設。しまさんブックの情報を基にコンセプトや 8 つの合言葉を紹介。Instagram とも連携。

WEB サイト URL

<https://shimasanfriends385.studio.site/>



④オープンチャットの開設

市民（しまさんフレンズ）の情報共有と交流を目的に開設。暮らしの中にあるしまさんにしましように関連する情報や活動など広く共有するために開設。

オープンチャット URL

<https://line.me/ti/g2/iNpmFXrLRd5EeCv-Uv2GrRK0->

[UD0A0adcu_b1A?utm_source=invitation&utm_medium=link_copy&utm_campaign=default](https://line.me/ti/g2/iNpmFXrLRd5EeCv-Uv2GrRK0-UD0A0adcu_b1A?utm_source=invitation&utm_medium=link_copy&utm_campaign=default)



⑤ステッカーの作成・配布

しまさんブックに続く市民とのコミュニケーションツールとして作成。裏面に Instagram の QR コードを配置。（サイズ：50mm×50mm）



市民が取り組むしまさん活動を応援する仕組みとして整備。しまさんにしましよのコンセプトに共感し、市民に広げることにつながるイベントや活動に対して支援を実施。市民からの申請に対し市が承認することで以下の支援を受けることができる制度。（※前述の「しまごはん部・しまさんぽ部」が起点となって整備）

1	ロゴマークの使用	各種制作するツール等にしまさんにしましょうのロゴマークを無償で使うことができる。
2	市の広報媒体の活用	イベントや活動の広報支援。市の広報誌や LINE による情報発信が可能
3	施設利用の減免措置	市が運営・管理をする施設利用時の利用料の減免。 例) 役所内会議室やホール、JTA ドーム宮古島など

https://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/shityo/sangyoushikou/sangyoushikou/shimasan_ni_shimashou.html

**しまさん活動
支援制度について**

「○○の○○な人と、
○○なこと、マツキでできんか?」

しまさん(鳥屋)にしましゅう(鳥屋)は、島ならではのものを大切に暮らす人たち
(=しまさんフレンズ)の食生活、島ならではの暮らしを大切にしたいという思いが
ある人らと通じてできるしまさん活動支援制度をつかって、やってみたい
力をカタチにしてもらう。

STEP 1

やってみたい! をカタチに。しまさん部を立ち上げよう!

島ならではの暮らしや活動を大切に暮らすので、まずは〇〇をはじめてみよう。
島産材を食べたり、散歩をしたり、島の時間を大切に過ごすだけでいいよ、しまさん部!

関心したい場所や
日時・内容などが
決まってる

No
アプ

しまさんフレンズに相談
しまさんフレンズの情報があるInstagramや
LINEオープンチャットで相談して計画をしよう

Yes
アプ

しまさん支援制度に申請しよう!

島ならではのものを大切に暮らす人たちの役割(=しまさんフレンズ)を応援する
ためだ!(宮古市産業振興課)。誰でも気軽に相談してみてください!
※支援内容: 広報のお手伝い、施設利用時の減免、ロゴマークの使用など

STEP 2

宮古島から、支援承認通知が届く

STEP 3

宮古島市のHPや公式LINEでも広報!仲間を集めよう

しまさん部に興味? マツキを楽しみながら、仲間に声をかけて話し合おう。場所の手配もしてくださいます。

STEP 4

しまさん部、開催!

いよいよ、当日! 島ならではのものを大切に作る仲間(=しまさんフレンズ)と満ちますね! 時間。
しまさん部を通して、島ならではの暮らしをもっと好きになろう!

STEP 5

終了後、しまさん部日誌で報告!

開催内容の共有もかねて、しまさん部日誌を書き合う(簡単なアンケートと写真の提出!)
しまさんインスタグラムなどで紹介させていただきます。

〆 かんーい。マツキ一緒に、まずかんーと一緒に、あしーい。えーおつた。フランチノへだす

しまさん部 日誌

部

はじめには?

Q1. しまさん部に参加きっかけは?

Q2. 希望した県民生活内容は?

Q3. しまさん部開催まで、どんな準備をしましたか?

どんな内容?

Q4. どんなしまさん部を開催しましたか? *様・内容/日時の様子/参加人数【大人/子ども人数】/参加費、等

Q5. 感想やしまさん部を開催していただいた人へのメッセージなどあればお願いします。

メッセージ

しまさん部開催の写真送付先はこちら!

当日の写真を撮影を添えてください! しまさんしましゅうのInstagram等でご紹介させていただきます!

しまさん
フレンズになろう

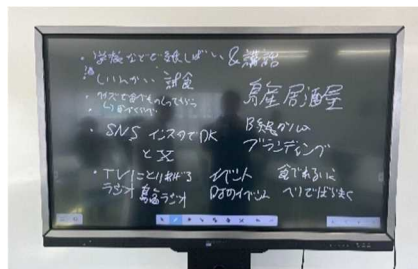
LINE オープンチャット Instagram WEB

資料ページを
見てください

⑦島の高等学院への出前講座の実施

しまさんにしましうへの理解促進と今後の連携（読み聞かせやしまさんマルシェ等）を目的に学生向けに出前講座を実施。本プロジェクトの背景とコンセプト、これまでの取り組みの説明した後、グループワークとして“しまさん活動”を広げるアイデア出しを行った。

- ・日時／2024年12月4日（水）11時40分～12時30分
- ・会場／島の高等学院（宮古島市平良西里791-3 2階）



結果的に後日2月24日（月・祝）に開催した「anna フェス～しまさんにしましう ♪」にボランティアスタッフとして学生6名が参加。（事務局から松川氏へ募集依頼）

⑧アニメーションの制作

しまさんブックに表現されている“しまさんにしましよう”の世界観をより幅広い世代に解り易く伝えるために、音声や BGM も組み合わせたショートアニメーションを作成。Instagram での投稿やしまさんマルシェでの投影などを行った。今後の情報発信にも活用できる素材として制作。(再生時間：1 分)



⑨しまさんにしましようプロジェクト動画の制作

しまさん活動のアイデアを持っているまたは検討している市民、一方で活動イメージを持っていない市民も含め、これから活動への動機づけやモチベーションに繋げるため、コア・コミュニティの活動を動画として記録し編集。今後の情報発信にも活用できる素材として制作。

⑩しまさん紙芝居の制作

しまさんブックの情報を子供向けに再編集・一部追加しストーリー展開させた紙芝居を制作。しまさんフレンズによるイベントや訪問による読み聞かせ等のコミュニケーションツールの一つとして活用。(表イラスト・裏ストーリーの全17枚)



⑪市広報誌への特集記事の掲載

市民向けの広報として市広報誌へ特集記事を掲載（見開き2P）。しまさんブックの内容を基に解りやすく記事としてまとめた。（10月25日発行号）



⑫「しまさんにしましようの日」制定に向けた検討

市民がしまさんにしましようを意識する仕掛けとして「しまさんの日」制定に向けてコア・コミュニティ会議内で検討。市と連携して制定する方向で協議を進めたが、現時点で地産地消のムーブメントの中で純粋に市民の大きな声から生まれたものではない、しまさん活動の輪がもっと広がる先にあるものでは、制定するだけでは具体的なアクションには繋がらないなど、様々な意見があり今年度は見送ることとした。

3.3 イベントの開催

コア・コミュニティ会議にてメンバーと協議を行った上で、今年度は以下の 3 つの形態でイベントを整理し開催または支援を実施。

1	単独開催（主催）	昨年度のしまさんマルシェのようなコア・コミュニティ及び市・事務局主催による単独開催。
2	既存イベントへの参加 または共催	既に市内で開催されているイベントへの参加または共催。双方のコラボレーションによる集客・運営における相乗効果を狙った開催形態。
3	しまさんフレンズ支援制度 を活用したイベントの支援 及び共催	市民活動を応援する形として、支援制度を活用した市民イベントの支援及び共催。

※以下イベントは時系列に沿って記載

①段ボールアートワークショップの開催

地産地消の拠点的存在である公設市場の活性化や入居事業者との連携を目的に、市場内に設置できる POP や掲示板作り等をワークショップ化。島の子供たちを対象に開催し、島の生物や食材をモチーフにした POP や、市民の“島の大切にしたいもの”を募る掲示板「ミニしまさん商店」を制作。

- ・日時／2024 年 9 月 21 日（土）11 時～13 時
- ・会場／宮古島市公設市場 外の広場（宮古島市平良下里一番地）
- ・対象／島の子どもたち
- ・目的／公設市場の活性化、しまさんにしまししょうの認知拡大
- ・内容／段ボールを使った POP づくり、ミニしまさん商店づくり
- ・形態／単独開催（主催）





②市場祭りへの参加

既に地産地消の取り組みを実践している公設市場との連携を模索。公設市場で毎月開催されている市場祭りにおいて、試験的にしまさんブースで出展。実際のイベントの雰囲気を感じると共に、提供するコンテンツのテスト実施等を行った。

- ・日時／2024 年 10 月 5 日（土）16 時～21 時
- ・会場／宮古島市公設市場 外の広場（宮古島市平良下里一番地）
- ・対象／地域住民及び観光客
- ・目的／11 月 2 日の市場祭りに向けた試験的な出展
- ・内容／野菜釣り、しまさんミニ商店の設置と活動 PR
- ・形態／既存イベントへの参加または共催



③市場祭りへの出店

公設市場で開催されている市場祭りにしまさんフレンズとして出店。市の広報媒体（広報誌・LINE 等）を活用し告知を行った。しまさんフレンズとしては野菜釣り、島野菜を使用したクイズをコンテンツとして提供。

- ・日時／2024 年 11 月 2 日（土）16 時～21 時
- ・会場／宮古島市公設市場 外の広場（宮古島市平良下里一番地）
- ・目的／公設市場の活性化及びしまさんにしましょうの認知拡大
- ・内容／野菜釣り、しまさんミニ商店の設置と活動 PR、島野菜クイズ「うりや～のーりやーボックス」
- ・形態／既存イベントへの参加または共催



④しまごはん部・しまさんぽ部への支援及び共催

コア・コミュニティメンバーである前田氏発案によるイベント。宮古島東部にある保良地区で、島の食材を楽しむランチ会「しまごはん部」、住民によるガイド付き保良地区散策イベント「しまさんぽ部」を同日開催。しまさんフレンズ支援制度を活用し市の広報誌・LINE・ラジオでの告知など広報支援を行った。

・日時／2024年12月13日（金曜日）

12時～14時：しまごはん部、14時～16時：しまさんぽ部

・会場／あがりの宿さんさーら（宮古島市城辺保良348-4）、保良地区

・内容／島の食材を楽しむランチ会、住民ガイド付き保良地区の散策

・料金／しまごはん部：大人（中学生以上）1,000円（税込）、
子供（小学生）500円（税込）、未就学児は無料
※食材費として

しまさんぽ部：無料

・参加／しまごはん部：大人16名、子供1名 未就学児4名（計21名）

しまさんぽ部：大人11名、子供2名 未就学児3名（計16名）

・形態／しまさんフレンズ支援制度を活用したイベントの支援及び共催

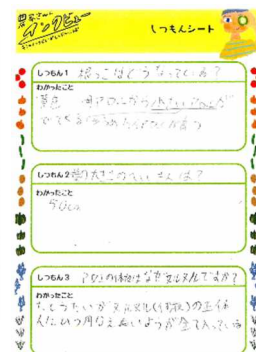




⑤しまさんやらび新聞

島の子ども（やらび）たちが新聞記者となって農家さんを取材。普段買い物をする場所（商店やスーパー）に並ぶ農家さんの食材を、子どもたち目線で紹介する世界に一つだけのオリジナル手作り新聞（POP）を作る取り組み。島の消費の現場で少しでも“しまさんにしましょう”の取り組みが広がるための仕組みとして実践。

- ・取材日時／2025年1月10日（金）16時～
- ・取材先／アロハス（アロエベラの生産者）
- ・新聞の活用／anna フェス～しまさんにしましょう♪、Instagram 他





⑥anna フェス～しまさんにしましろう♪の支援及び共催

昨年度に引き続き“しまさんマルシェ”開催を検討する中で、コア・コミュニティメンバーである長濱氏より自身が主催する“島ならではの子育てを応援するママフェス「anna フェス」”との共催について提案があり、コア・コミュニティ内で協議した結果、しまさんフレンズ支援制度の活用と併せて“しまさんマルシェ”との共催という形で実施。また支援制度によって会場となった JTA ドーム宮古島の利用料減免措置、市の広報誌・LINE・ラジオでの告知等の支援を受けてイベントを開催。

【anna フェス】

島ならではの子育て、島の子育て世代、ママを応援するフリーマガジン「anna」が主催するイベント。

anna Instagram > <https://www.instagram.com/anna385m/>

- ・日時／2025 年 2 月 24 日（月曜日・祝日）11 時～16 時
- ・会場／JTA ドーム宮古島（宮古島市平良下里 2511-35）
- ・テーマ／島ならではの子育て、遊び、食や文化・風土を楽しむ！

しまさんでつながるフェス

- ・対象／島で子育てを楽しむママ・パパ・おじいおばあ
島ならではの食や文化・風土を楽しみたい方
- ・料金／入場無料
- ・主催／anna フェス実行委員会、宮古島市
- ・運営／anna フェス実行委員会、しまさんフレンズ

・目的

1. 島で子育てをするママ達や親子をはじめ、島ならでのものを大切に暮らすみんながつながるフェス(場)をつくる
2. 島ならではのコト・モノに改めて触れて楽しむことで、島での生活や子育てをより楽しめるようになってもらう
3. 「しまさん」をキーワードに島の人と農家や企業がつながり、そこから新しいコミュニティが生まれる、そんな場と機会を提供する
4. いつも自分が楽しむことは二の次にしているママやパパが、「今日は自分も楽しかった♪」と帰ってから、親子で話せるようなフェスにする

・内容

No	コンテンツ	内容
1	ハイハイレース	赤ちゃんのハイハイレースを開催。出場した赤ちゃんには手作りメダルやおむつなどをプレゼント
2	anna トーク	「ママさん助産師&ママさん理学療法士に聞いてみたい、子育てのこと自分のこと」をテーマとした子育てに関するおしゃべり会
3	うりや～のーりやーボックス	箱の中に隠された島野菜を当てる対戦式クイズ
4	いろいろマルシェ	ハンドメイドアイテムやフリマ、占いやマッサージ、島で獲れた野菜や作られた加工食品などいろいろな店舗が集まる anna×しまさんの合同マルシェを開催
5	しまさん商店	子供達を対象に、食材の販売体験ができる特設ブースを設置(子供店員が食材を販売)
6	しまさんにしましうコーナー	しまさんにしましう紹介ポスターやブック等の配布
7	キッズスペース&遊び場	こども達がお絵描きや工作を楽しめるキッズスペース兼遊び場を設置(無料開放)
8	授乳&お着替えルーム	人の目を気にせず授乳やお着替えに使える部屋を用意
9	うむいチケット	会場内の anna 側出店ブースで可以使用できる子供専用の 300 円分の金券チケット。チケットには子供たちが感謝の思いを記入して使用
10	しまさんカード	しまさんマルシェ側出店ブースで可以使用できる子供専用カード。生産者へ質問してコミュニケーションを取るとスタンプを押してもらえ、ビンゴになると「しまさん商店」で販売体験ができる仕組み

・出店者一覧（しまさんマルシェ側）

No	出店者	品目等
1	菜彩農園 遊戯三昧	チンゲン菜、小松菜、ターサイ、わさび菜、ほうれん草、ピーマン、トマト
2	久保ファーム	玉ねぎ、じゃがいも、にんじん、ジャンボインゲン、ほうれん草、チンゲンサイ、山東菜、島ネギ
3	田村ポテトファーム	じゃがいも
4	8farm	玉ねぎ、ゴーヤー、とうもろこし
5	mareeba farm	なす、ピーマン、ゴーヤー
6	かりまた共働組合	もずく
7	東京農業大学宮古亜熱帯農場	ヤムイモ
8	まるごと宮古島	※諸事情により当日キャンセル
9	あまいの大好き！農園	※諸事情により当日キャンセル

・来場者数／1,367 名（しまさん商店で販売体験した子ども 55 名）



・制作物



コラボロゴマーク



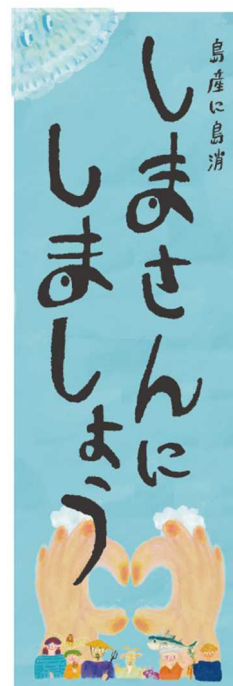
しまさんカード



フリーマガジン anna 掲載ページ



ポスター



のぼり

・出店者マニュアル

お申し込み、お問い合わせはブランド情報課にて承ります

出店者の皆さまへ



日程／2025年2月24日(月・祝)
 時間／11:00～16:00
 会場／JTAH*西宮出店(西宮市平良字下2511-35)

問い合わせ先

annaフェス実行委員会 Instagram @anna.285s facebook /anna-fes-2025/anna Eメール:anna103@doc.ac.jp 担当:山本	西宮市立西宮東部児童児童館課 電話／0980-73-1919 担当:村上
---	--



1.

annaアネス～しまさんにしまようふ

1. 出店者の要件について

本イベントは、以下の条件を満たしている方にのみ参加していただいております。

1. 本イベントの開催の趣旨に賛同し、協力することができる
2. 市販で買いたての食材・調味料・包装材などを使用している
3. 商品販売が目的と関係なく、楽しみのためであること（無償提供）

要 件
1. お母さまや子どもでなくてもよい
2. 煮たり焼いたりする調理器具が必要
3. イベント会場にてでも十分な場所があること
4. 自分または自分の家族のものを売ってよいこと ※、イベントを機として近所者と交流できる人々が増えること



2. ウムイテケットについて

美術館・自然史館よりお借りの「ウマイテケット」は無料です。
例外的には以下イベント会場のほかのみでお貸りできます。
ご希望の方はお問い合わせください。

対面店舗

両成村を流通する生産者さん以外の店舗が
利用可能の店舗となりますので、ご見物の方よろしくお問い合わせください。



2

annaフェスーしまだんにしよう♪

3. しまだんカードについて

- ① 参加者は、お友達に「しまだんカード」を渡す必要があります。
- ② 参加者「A」は、お友達「B」に渡します。
- ③ 参加者「B」は、しまだんカードに記録した「お友達」の人数を出発し、記録した人数まで、お友達ください。

質問時間

- ① 質問時間には、質問することができます。
来場者「A」は、しまだんカードにスタンプを押しつけてください。
参加者「B」は、スタンプを渡す必要があります。
- ② 参加者「B」は、お友達「A」に渡す必要があります。
参加者「A」は、お友達「B」に渡す必要があります。
参加者「B」は、しまだんカードに記録した「お友達」の人数を出発し、記録した人数まで、お友達ください。

対局準備

参加者は、お友達「A」に渡す必要があります。
参加者「A」は、お友達「B」に渡す必要があります。

3

[illegible]

annaエスエーしまさんにしまようふ

7. 出店者の駐車場について

特に指定がない限り、出店者の駐車スペースは出店者にはない。

8. 電源の使用について

出店者の電源は、使用可能であるが必ずしもどこでも使用できません。
電源の位置や容量、電圧の相違により、出店者に警告がある。出店者までで電源に責任を負い、
設備により使用し得ない場合があります。

9. 出店が飲食および食品の場合

【販売許可の要否】

食品販売許可を有する出店者が、食品のサンプルを1袋提供可能。
→食品は、お店内で販売できません。

【食品工芸品等の特例】

食品の加工品や食品の加工品を販売する場合、食品の加工品を販売可能。
→許可書の内容を参照してください。食品の加工品を販売可能。

出店者が許可されていない場合は、販売までに取得してください。

10. 試食または会場内飲食について

会場については、東海市を無条件で利用するが、会場内に許可証の取得が必要。
また、会場内での飲食についても、お客さまが食品の購入と飲食の提供、
は別々の行為と見なされる。

5

annaフラスー~しまさん~にましよう♪

11. 撤入撤出について

① 撤入撤出からフラスーまでの音の時間(10分、15分、20分)をお知らせします。
② 撤入撤出の時間にはフラスーの音(おまじない)の音に合わせます。

撤入時間/9:00~

みんなで一緒につくるふたつきしたいので、「遊ば(やまもかきまも)のうた」についても店頭のなかへみんなも手拍子しながらと音階(おんがけ)のうたがりますので、ぜひご協力をお願いします。

※おまじない、撤入の時間にはおまじないの音階(おんがけ)の音に合わせます。
※おまじないの音階(おんがけ)の音は、おまじないの音階(おんがけ)の音に合わせます。

撤出時間/16:00~17:00

みんなのイベントが終わったことになります。

① 店頭のなかについてまわすおまじない(10:16:00)までおまじないの音階(おんがけ)の音に合わせます。
② 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。
③ 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。
④ 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。

12. 会場確保と座状回復

会場での座状回復を確保するため、おまじないの音階(おんがけ)の音に合わせます。
① 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。
② 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。
③ 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。
④ 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。

13. ミミの髪分について

おまじないの音階(おんがけ)の音に合わせます。
① 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。
② 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。
③ 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。
④ 撤入撤出の時間には、みんなの音階(おんがけ)の音に合わせます。

6

annsアニス～しまさんという子猫

11. 搬入搬出について

① 転入者からアニスまでの移動の時刻は、夜中、手渡しでお願いいたします。
② 転出者からアニスまでの移動は、スムーズな搬入のために協力ください。

搬入時間/9:00～

イベント開始は11:00ですので、**9:30頃の移動は10:30頃までにアニスが入る**ようご協力をお願いいたします。
移動の妨けとなる、搬入時刻の調整などは転入者さまと事前に調整してください。

搬出時間/16:00～17:00

当店はイベント終了後の搬出にのみります。
① イベント終了時間内にお品づきあわせを済ませ、スタッフまでご連絡ください。
② 各品目の仕入れ見て販売の調整をさせていただきます。

12. 会場保護と原状回復

会場内での移動や搬入・搬出、またその際に設置する機材は当店で用意させていただきますが、会場保護に協力し、必要に応じて搬入搬出を支援してください。
また、会場内の機材破損を防止するため、会場内の機器・設備を盗み、損壊する、盗品を転売する等の行為は厳禁いたします。

13. ゴミの処分について

当店の会場にはご自身で用意した持ち帰り容器、持ち帰り、処分をお願いします。



7

・当日の様子



3.4 新たな仕掛けの検討・実施

(1) 市民活動の輪を広げるための新たな仕組み（仕掛け）

＜今年度検討・実施した仕組み（仕掛け）一覧＞

※本紙 3.2 (2) の「市民活動の輪を広げるための仕組みづくり」を参照

①しまさんブックの配布	⑦島の高等学院への出前講座の実施
②Instagram の開設	⑧アニメーションの制作
③WEB サイトの開設	⑨プロジェクト動画の制作
④オープンチャットの開設	⑩しまさん紙芝居の制作
⑤ステッカーの制作・配布	⑪市広報誌への特集記事掲載
⑥しまさんフレンズ支援制度の整備	⑫「しまさんの日」制定に向けた検討

(2) 次年度以降の仕組み（仕掛け）作りに向けて

本プロジェクトが起点となって市民活動の輪を広げながら、新たな市民活動が生まれる、または既存の市民活動がより活性化するような仕組み作り、環境づくりのベンチマーク的取り組みとして「なんじょう市民大学（沖縄県南城市）」を選定。事務局による現地視察と勉強会の開催を実施。

【なんじょう市民大学】

“市民が主役の南城市”の実現に向けて、南城市が取り組む市民リーダー育成を目的としたプロジェクト。市民が交流し様々なノウハウを学びながら、地域の課題解決や魅力発信をテーマに、自身のアイデアや活動を形にするプロセスを行政が 2 年間継続支援する仕組みになっている。なんじょう市民活動サポートセンターが市の受託先として運営を担っている。（事業開始：平成 22 年～）

なんじょう市民大学 HP > <https://www.nansapo.jp/univ/>

①なんじょう市民フェスタの視察

なんじょう市民大学の生徒たちによる成果発表や、地域住民によるサークル活動の発表（ダンスや演奏など）、その他市民大学の OB も参加するマルシェなど複合的な内容で開催される「なんじょう市民大学フェスタ」。今回は、次年度以降のしまさんにしまじょうの事業推進、市民活動を広げるための仕組み作りの参考事例として視察を実施。

・日時／2025 年 1 月 12 日（日）11 時～16 時

- ・会場：南城市役所 1F 大会議室（沖縄県南城市佐敷字新里 1870 番地）
- ・入場：無料
- ・参加：濱部玲美、北田愛、増田千尋（事務局より 3 名）



背景	・ 2010 年にスタート（発足 15 年で、現在 14&15 期生が活動中 ※2 年プログラムのため） ・ 市民のリーダーづくりとして発足 現状は、リーダーだけでなく「地域のことをもっと知りたい」「地域の人ももっとつながりたい」という動機が多い
体制	・ 当初は行政主体、のちに民間による支援へ移行 ・ なんじょう市民活動サポートセンターは 4 名のスタッフが常駐（市役所 2 階が事務局オフィス）
入学動機	・ 地域で人脈をつくりたい ・ 地元で活躍している先輩に刺激を受けて ・ 南城市をもっと知りたい など
成果発表	・ 2 年次がチームごとで成果発表を行う ・ 0B 生の繋がりがあがるからこそ、サポート環境が整っている ・ 友達もできて日々の生きがいが増えたことを嬉しそうに語る姿が印象的
市民大学	・ 基本的にテーマ設定やリサーチ方法は自由 ・ 講座目標は提示しつつ、困っていることがあれば支援する

なんじょう市民大学のカリキュラムは2年で構成されており以下のような内容となっている。

 市民大学の開講期間は2年間



1年目は活動の実践に向けたチーム作りとアイデア出し、2年目は実践編としてアイデアのブラッシュアップしながら実践し、最終的に報告する流れ。基本的に市民の主体性を尊重したカリキュラムとなっている。

なんじょう市民大学は平成22年にスタートし今年で15年目。現在は募集をかけると定員オーバーするほどの人気ぶりで、書類審査で受講生を選抜している状況。南城市在住者以外も応募は可能。長年継続していることもあり、過去に市民大学を卒業したOB同士のネットワークも広がり続けている。

②なんじょう市民大学の秋本氏によるレクチャー会の開催

なんじょう市民大学を運営する「なんじょう市民活動サポートセンター」のセンター長を務める秋本氏と運営スタッフの喜瀬氏を招聘し、なんじょう市民大学のこれまでの経緯や市民活動をサポートする仕組み、運営状況等について学ぶレクチャー会を開催。

- ・日時／2025 年 2 月 4 日（火）15 時～17 時
- ・会場／宮古島市役所
- ・講師／秋本康治氏（なんじょう市民活動センター センター長）
喜瀬沙織氏（なんじょう市民活動センター 運営スタッフ）
- ・参加／コア・コミュニティメンバー及び事務局（15 名）



<トピック>

市の委託事業	・ 3 年に 1 度公募
なんじょう市民大学とは	・ 多様な人がまちづくりになるきっかけ ・ 仲間づくりの場、つながりができることで社会課題の解決につながる ・ まちづくりのスキルを学ぶ場
まちづくりに市民の力が必要	・ 市民は創造力（アイデア）に溢れている ・ 市民のアイデアを活かすことが暮らしやすいまちになることにつながる
募集方法	・ 広報に力を入れている（人が集まることがまずは重要） ・ 市内全戸へのチラシ配布 ・ 説明会の開催 ・ 市ホームページでの告知掲載 ・ SNS 広告の活用（Facebook、Instagram）

	・OBOG の口コミ
カリキュラム	・メイン講座は2年間 ・講師を招聘し月1～2回程度開講 ・市長の講話や市民と行政と話合うグループワークもある ・2年目はプロジェクト型学習でチームを組んで進める ・活動資金が必要な場合は学生自身で調達
活動プロセスの記録	・活動プロセスの記録（ホームページ、SNS、市民フェスタ、市広報やメディアへの取材依頼など） ・デジタルアーカイブ（各回を動画で録画しYoutube等で共有、講座内容の振り返りや配布資料をLINE配信）
市民大学生への対応	・方向性は示さない ・活動のヒントになる情報提供はする ・主体性を持ってもらうための声掛け（賛同）
課題	・3年目以降の市民大学生のモチベーションの維持と活動の継続性
しまさんにしましうでの仕組み作りに対して	・地産地消（しまさんにしましう）の解釈を広げることができたら、きっと自由度は高まるのでは ・自由に考えるよりは、ある程度テーマが決まっていた方が市民も考えやすい所もある、制約があることをチャンスと捉えられる所もあるのではないか

4. 今後の課題整理と展開について

(1) 本年度の事業成果

◆コア・コミュニティの拡張

昨年度における成果としてコア・コミュニティの醸成があった。このことは、コアとなるメンバー間において関係構築ができたということを意味している。しかしながら、本事業の目的は「しまさんにしましょう」という運動を島全体に拡張させていくものである。従って、既存のコア・コミュニティメンバーで成功した関係構築を拡大させていくことをチームのノウハウとして確立していく必要がある。

そのため、本年度は昨年度のコア・コミュニティメンバーから声掛けを行い、新しいメンバーへの声掛けを行ってメンバーの拡張を行った。これは単に人数を拡大するというのみならず、活動に参加していない新しいメンバーに入ってもらうことで、実際の拡張フェーズにおいて一般市民などが感じるであろうハードルや利点などを話してもらいながら、進めていくものであり「しまさんフレンズ」と「一般市民」との共創に関する実証実験としても捉えることができる。

結論からいえば、毎回のコア・コミュニティ会議において、新しい視点での率直な意見なども話してもらいながら、実際の市民が感じるであろう視点を聞き出すことができた。また、新規メンバーは自身の友人へ運動を推奨するなど積極的な動きを見せるとともに、自身でもイベントを立ち上げるといった成果を上げることに成功した。その意味で、本年度ではコア・コミュニティの拡張に成功したといえる。

◆活動ノウハウの蓄積

本年度は「しまさんフレンズ」の定義について新規メンバーを交えて話していくことで、より明確化していくことができた。これにより具体的な活動へと移行することができている。しかしながら、どのような活動を行うことが事業において効果的であるかどうかについては分からなかったため、SNSによる広報活動、自主活動、支援活動、先進地域事例研究など様々な活動を実践しながらノウハウを蓄積していった。その結果、昨年度はコア・コミュニティ自身がイベントを運営していたが、今後の拡大を目指す上では同じ気持ちを持つメンバーの支援をしていくことが効果的であるとの結論となり、しまさんフレンズ支援制度を創設することになった。

それらのノウハウが大きな成果と結びついたものが、今年度のしまさんマルシェとして開催した「anna フェス～しまさんにしましょう♪」である。本イベントは、宮古島市の子育てを支援する団体である「anna」が従来自分たちだけで主催してきたイベントに支援制度を活用する形で実施したものである。結果として、島民の約2.5%にあ

たる 1,367 名が来場するイベントとなり、出展者や来場者からも高い評価を受ける事ができた。「anna フェス」は anna が単独開催した昨年度では同じ会場を利用したが、来場者数は約 400 名であったため本支援制度を活用したことで約 3 倍の成長を実現できたことになる。これが実現できたのは、上記のような数々の実証実験を積み重ねながら市民目線での活動支援ノウハウを蓄積できたことにあると思われる。

（２）今後の課題整理

◆情報発信に関する課題

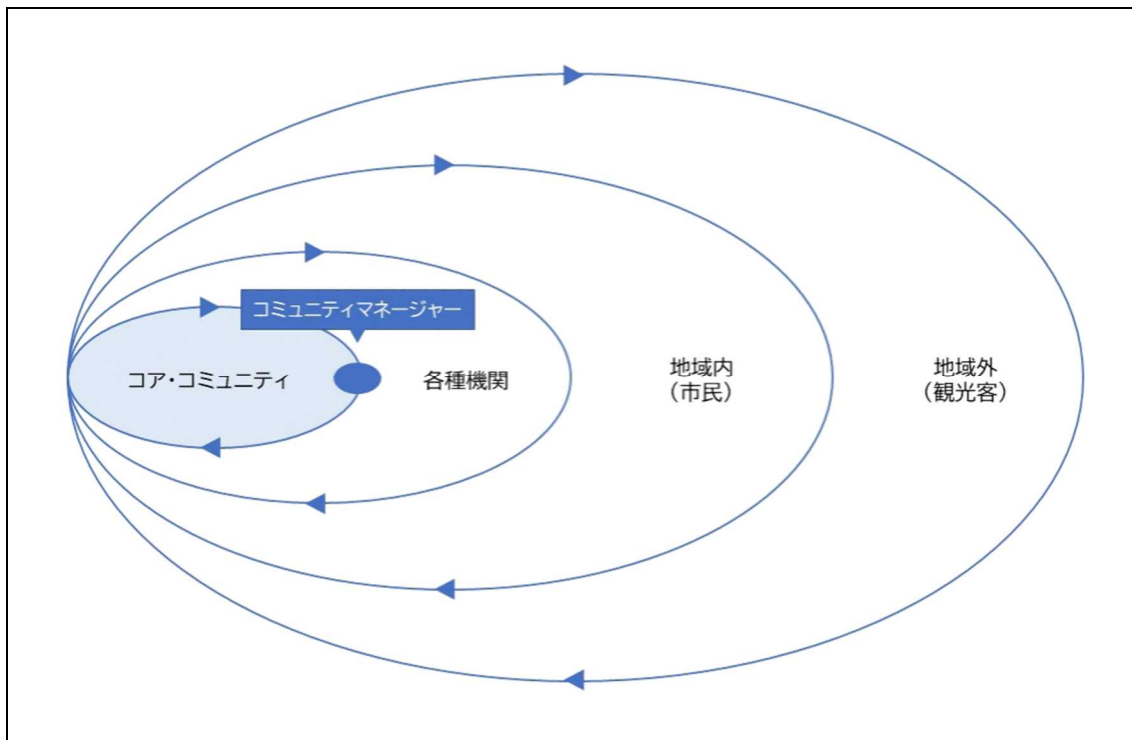
今年度は新たに情報発信事業も開始し、新たな仲間を巻き込むことが模索された。情報発信も従来の発信型のみならず LINE グループを活用した双方向なども施行した。これらは、一定の効果は上げたものの、イベントの集客人数と比較すると必ずしもフォロー数等の増加も同時に実現できたとはいえない。しかしながら、多くの団体にとってしまさんフレンズになるかどうかを決める上で、広報支援は大きな理由になるものと思われる。

単純にフォロー数を増加するだけでは意味はないが、島の団体にとって一目おかれるメディアとして成長していくことは必要である。その意味で現時点では情報発信として課題を抱えており、今後改善していく必要がある。

◆コア・コミュニティの位置づけ

2年目において、コア・コミュニティ自らがイベントを実施し続けるのではなく、支援制度を活用した団体と一緒に動きながらしまさんフレンズを拡大させていく方向性になることが決まった。これにより、従来のコア・コミュニティとは異なる動きが必要になってくる。このことは、報告書 p.5 で示した下記のコア・コミュニティから広がる波及イメージの各種機関へと運動が拡張してきたことが原因ともいえる。

従って、次年度以降においてはコア・コミュニティをどのように位置づけるのかについて検討していく必要がある。



◆イベント運営における課題

今回のイベントは出店者数・来場者数ともに大幅に増加、イベント全体も終始和やかな雰囲気で開催することができた。anna フェスの層（子育て世代）、しまさんマルシェの層（島ならではの大切にする層）の親和性も高く、双方のコンセプトが合致する点が多かったと思われる。結果的にイベントとして大きく成長させることができた。

一方でイベント規模が大きくなることでの運営側の課題も見えた。人員配置と役割の明確化、怪我や事故への対応策など、今後に向けてマニュアル等での整理も検討したい。ここでイベント自体の規模の拡大や成長が目的ではないことを今一度確認する必要もある。本事業の目的は地産地消を推進していくものであり、しまさんにしまししょうのコンセプトにどれだけ多く共感する市民をつくり、市民活動の輪を広げていくところに本来の目的がある。様々な活動や仕組みを通してコンセプトを丁寧に伝えることで、結果として大小関係なく市内の至るところでしまさんの活動・イベントが盛んに行われる未来を目指したい

（３）今後の展開について

上記の課題に鑑みて、今後の展開として検討すべき内容を記載する。

◆コンセプトが反映されたイベント運営になるような支援体制の構築

支援制度の確立により、今後はこうしたイベントの数が増加するものと思われる。

しかしながら、イベントの数が増えていけばコンセプトを必ずしも理解しない団体等の活用も増加してくるものと思われる。コンセプトを実現するためのイベントとなるように、支援制度の構築を実現していく必要がある。例えば、説明会の開催や制度を実施した団体代表による成果発表会によってノウハウを地域の共有財産化させていくなどが考えられる。また、支援制度を活用する場合に必ず実施しなければならない事項なども考えられる。

◆情報発信について

次年度からは情報発信について戦略的に実施していく必要がある。例えば、情報発信における年間計画の策定などを実施して、毎回毎回考えるといったコストを軽減するなどが考えられる。事業終了後の自走も考慮して、予算なども踏まえながら現実的な運営方法について検討していく必要がある。

◆異なる団体間を繋ぐ作業

今後は、様々な団体が支援制度を活用する形で本事業と関係を持つことになる。「しまさんにしましょう」という活動を広げていく上では、こうした異なる団体同士を「しまさんフレンズ」を媒介にして繋いでいき地産地消に取り組む人たちを増やしていく必要がある。

このような社会的ネットワークの構築は本事業の専門家である久保氏からも指摘があり、具体的には以下の図となる。

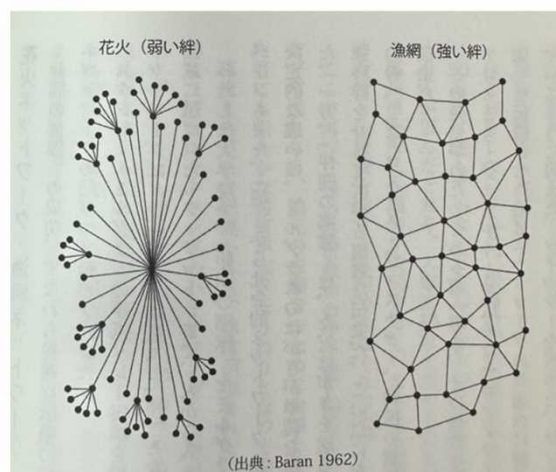
2つの社会的ネットワーク

花火型（認知拡大のネットワーク）

適性
・単純な情報の伝達

特徴
弱い繋がりのため拡散しやすい。一方で社会規範変化を伴う複雑な情報には向かない

実現方法
・インフルエンサーやマスメディアなど多くの弱い繋がりを持った中心的存在が拡散させる



漁網型（変化を促すネットワーク）

適性
・社会規範の変革をもたらす情報

特徴
互いに強い絆で結ばれた関係のため社会規範変化を伴う複雑な情報に向いている。一方で歩みは遅い。

実現方法
・人ではなく場所に注目して情報伝達を行う。

本事業のように人のライフスタイルを変革するようなネットワークは、上記の漁網型であり、人ではなく場所に注目する。ここでいう場所は、本事業においては団体に当たる。様々な団体を「島ならではの生活を大切にする」というコンセプトの基で強い関係性を構築していくことで本事業の達成に近づくものと思われる。上記の社会ネットワークを実現する方法について模索していく必要がある。

令和6年度宮古島市地産地消ブランド化推進業務

2025年2月

発行：宮古島市 産業振興局 産業振興課

〒906-0012 沖縄県宮古島市平良西里1140番地

TEL：0980-73-1919
